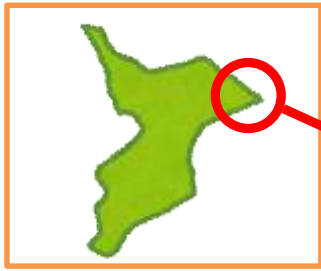


産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(28年度:計画作成主体:銚子地域農業再生協議会) (千葉県)

取組の概要

- 対象品目 : 野菜(未成熟とうもろこし)
(産地面積205ha)
- 主な取組主体 : ちばみどり農業協同組合
- 成果目標 : 集出荷コストの13%削減
基準(H27年度) 3.12円/5kg
目標(H30年度) 2.70円/5kg
- 導入施設等 : 整備事業(集出荷貯蔵施設
(真空予冷装置))



千葉県
銚子地区

ポイント

【産地の課題及び取組方向】

産地ではキャベツと組み合わせた栽培体系で未成熟とうもろこしの栽培が拡大傾向にあり、予冷施設的能力不足が懸念されていた。

また、消費者からは新鮮な農産物を望む声があり、市場や量販店から収穫即日搬入が求められていた。

このことから、産地の安定した生産体制の構築及びより一層の競争力強化を推進するため、集出荷体制を効率化し、出荷コスト低減を目指す。

【産地の体質強化に向けた方策】

- ①真空予冷施設の整備により、産地の集出荷体制を効率化し、生産体制の強化を図る
- ②効率的な真空予冷施設の整備により、産地の競争力強化をすすめる、出荷コスト低減や生産者の所得向上を図る

産地体制

- ・海匠農業事務所(県)
- ・銚子市

- 銚子地域農業再生協議会
- ①計画の策定・管理
- ②取組計画への助言

指導・助言

情報共有

- ・ちばみどり農業協同組合が主体となって事業を推進
- ・銚子市が積極的にサポート

- ちばみどり農業協同組合
- ①取組計画の作成
- ②取組実施等

地域における独自の取組

〈主な取組〉

- ・未成熟とうもろこし「黒潮パンタム」のブランド化
- ・コールドチェーン強化により、収穫当日に鮮度保持を行った商品を実需者に提供する

取組成果

【事業実施による直接効果】

- ①施設整備による集荷機能の効率化
- ②冷却時間短縮によるコスト節減
- ③共同集荷によるコスト節減
- ④事業活用による初期投資の節減

【事業実施による間接効果】

- ①効率的な予冷体制構築により品質向上が図られ、さらに引き合いが強まり、販売単価(量)が増加
- ②販売額・知名度が高まることで生産・集荷量の増加が図られ、共同集荷の効率化によるコスト節減

出荷コストが13.5%削減
(達成率100%)

